



# みんなで育てよう 男女共同参画センター

八千代市男女共同参画センターは、婦人研修センターとして平成元年に設立され、女性研修センターを経て今年 21 年目を迎えます。現在では八千代市の男女共同参画を進める拠点として、女性の教養を高めたり社会進出を図るための講座や男性の家庭参画を図るための講座を開催したり、男女共同参画に関する活動などのための施設の提供を行っています。今回の特集では歴代専任センター所長の方々からお話をうかがい、男女共同参画センターの歩みを振り返りながら今後のあり方を考えます。



当日は残念ながら出席できなかった歴代所長よりコメントをいただいたので、紹介します。

## 本橋美津子さん（平成 16～18 年在任）

私が赴任したのは、男女共同参画社会の実現に向けてさらなる充実を図るために、女性研修センターから男女共同参画センターに改称された初めての年でした。

主催者側から見ると、いい企画だと思って開催しているのですが、参加定員にならずに頭を悩ませた講座もありました。やはり参加者のニーズに合ったもの、時間帯等を考慮して企画し新しい参加者を募りたいですね。

私は共働きでしたが、特に意識しないうちにお互いが助け合って、子育て、介護もできたことは幸せでした。今後も意識啓発を進めて、男性も女性もともに社会の一員として、自然体で暮らせる社会の実現に向けて男女共同参画センターが一役買えばいいですね。

## 須田早苗さん（平成 19 年在任）

私が所長在任中には、初めて小学生対象の講座を勝田台小学校で行いましたが、男女共同参画を推進する上でとても大事なことだと感じました。

大人への啓発も必要ですが、それ以上に子どもたちの考え方への刺激が必要であり、素直に受け止めてくれるので効果が大きいのではと思います。

## さあ、次のステージへ

八千代市男女共同参画センターは、婦人研修センターから始まり、市民とともに歩み今年で 21 年目となりました。

これまで女性施策や男女共同参画施策の中で、男女共同参画の意識づくりや、女性の再就職支援、男性の家庭参画支援、子育て応援など、主催講座や施設の利用提供を通して、さまざまな取り組みを行ってまいりました。

また今年、男女共同参画基本法の施行 10 周年の節目の年でもあります。男性の育児休業取得率や女性の管理職選任率など、社会状況は改善しつつあります。一人ひとりが個性を認め合い、いきいきと暮らせるよう、次のステージへの取り組みを新たな気持ちで行ってまいります。

これからも、より多くの市民に知っていただき、身近な施設としてご利用いただけるよう努めてまいりますので、ご支援よろしく願いいたします。



澤田：いろいろなきっかけで参加していただいて、講座の中で人と人のつながりを作って、人の力をあげていくことが大切ですね。

さて恵さんが在任中、特に印象に残っていることは何ですか。

恵さん：私が在任中のときには、子どものときからの意識づくりが大切だと思い、中学生を対象として、男性料理サークルのお父さんたちと交流できる講座を行いました。参加者の中で、父役、母役、子ども役などの役割を決め、普段とは違う立場になり意見交換を行うのです。この時、彼らはお父さん・お母さん・おばあちゃんたちの気持ちにちょっと気付けた講座だったと思いますよ。

浅野：現在でも小中学生を対象にした講座は続いていて、去年は阿蘇小学校で講座を行ったとのことでした。やはり子どもは、いろいろな知識を吸収しますから、そういうときに意識づくりをするというのは大切なことですね。

恵さん：平成 15 年実施の市民意識調査で、「男女共同参画社会形成を目指すために必要な施策は？」という問いに対し「子どものときからの男女平等意識づくりが大切」という回答が一番多かったですから、大切な取り組みだと思います。

浅野：今後は、就学前のお子さんへのお父さんの読み聞かせ講座も実現するといいいなと思っています。お父さんとの交流を深めて育児に参画したり、その後センターを利用したりする良いきっかけになるのではないのでしょうか。

澤田：本日はお忙しいところ、ありがとうございます。事業計画を立て、実施し達成させていく難しさを痛感しておりますが、お二人のお話をうかがい、とても参考になりました。

これからもお体に気をつけられて、男女共同参画の意識を家庭や地域社会に広めていただけますよう、益々のご活躍を期待しております。

浅野：連続講座は参加者同士のコミュニケーションが図れ、仲間づくりができる点でも良いですね。

恵さん：連続講座の記録をつけて、講師と参加者が一緒になってまとめ、最後に文集にするという取り組みもありました。一冊の本になると嬉しいですね。

白鳥さん：講師も参加者もお互い学び合い、ともに成長するというのはすばらしいですね。

澤田：在任中特に印象に残っていることは何でしょうか。

白鳥さん：私の在任中、講座を行う際に初めて保育をつけました。若いお母さんにもっと講座に参加してもらいたいという思いがあったからです。おかげで、たくさんのお母さんが講座に参加してくださいました。講座後、「いつも子どもと 2 人で息がつまりそうだった。保育がついている講座なので参加できた」という感想が多かったので、お役に立てたのではないかと思います。



▲ 白鳥智子さん

恵さん：講座に積極的に参加していただく方は良いですが、参加したいと思っているけれど一歩踏み出せない方もぜひ参加してほしいですね。

白鳥さん：子育て中の人で、公園にも行けないという人がいます。上下関係があるのでは……、既存のグループがあるのでは……、と不安になってしまうのでしょうか。その垣根を取り払うことができれば良いと思います。

浅野：最近では、保育を利用して講座に参加する若いお父さんもいらっしゃいます。保育は、いろいろな方に講座に参加してもらう良いきっかけとなっていますね。

恵さん：講座の後に茶話会などを行ったり、講座後の自主サークルを支援するような取り組みを行えば、交流のきっかけになって良いと思いますね。

澤田利恵子男女共同参画課長（司会）：早速ですが、お二人がこちらのセンターに赴任されたときのお話をお聞かせください。

白鳥智子さん：私は平成 7 年～11 年に在任しました。当時は“女性研修センター”という名の社会教育施設で、女性への支援や女性問題の意識啓発が主な事業でした。

センター所長は、それまで青少年女性課長が兼務していたので、私が初めての専任所長でした。いつもセンターにいと、施設や利用者の雰囲気がわかって良いですね。このセンターに来て、施設がきれいな状態であることに驚いたのを覚えています。調理室もとてもきれいで、利用者がきれいに使ってくださっているのだなと思いました。

恵美久子さん：年末になると、掃除をしましょうかと進んでおっしゃってくれる定期利用団体の方がいます。このような方たちがいるからこそ、きれいに保つことができるのだと思います。

浅野幸子男女共同参画センター所長：現在も 20 年たつとは思えないくらいきれいですので、私も赴任したときは驚きました。

恵さん：私は白鳥さんの後任として、平成 12～15 年に在任しました。センターの講座は、細部まで計画されていて進め方が丁寧だと思いました。「講座は準備が 8 割」と言いますが、本当に準備がよくできていて、あとは当日を迎えるだけという感じですね。

それから当時は、何週か続けて行う連続講座が多かったです。講座中に質問できなかった参加者が、講座後の感想用紙に質問を書き、次の回で先生が答えるということもあり良かったと思います。



▲ 恵美久子さん